

## 授業づくりグループ④

### 生徒一人一人の好きなことから出発する集団のグループ学習づくり ～保護者との連携を深めながら～

岩沼見奈 木下聡子

共同研究者：吉川一義(金沢大学教育学部) 中川好美(金沢大学生)

#### 1. テーマ設定の理由

##### (1) グループ学習について

中学部の「グループ学習」を研究対象として取り上げて今年で3年目となる。グループ学習とは、国語・数学を中心に学習する授業である。年度当初、中学部の教師で個人差や習熟度、子ども同士の相性などを充分話し合っただけではなく、「美術」「職業・家庭」でも同じグループ編成で授業を行っている。

##### (2) 生徒の実態について

本グループは、1年生1名、2年生2名、3年生1名の計4名で構成されており、担当教師は2名である。3年生の1名は昨年度より本グループに所属している。

4月当初、共に過ごす中で以下のような実態が見えてきた。

- ・4人とも「食べ物」にとっても興味があり、食堂へ向かうこと、冷蔵庫を物色することが多い
- ・教師が提示すると「好きなあそび」に長い時間遊び、好きな場所では長い時間過ごす
- ・授業では、長い時間同じ場所に座って、同じ活動に取り組むことは難しく、カードなど視覚的な物を提示し活動内容を伝えても、カードを拒否し、教室を出歩く
- ・教師が活動内容などを提示すると、「自分のしたいこと」や「してほしいこと」を何らかの方法で伝えられず、声を荒げることが多い

このように、生徒一人一人に「興味・関心のあること」はあるようだが、うまく教師に伝えられないため、教師を介さず直接的な行動に出て、かたくなな態度や表情を見せることが多かった。

##### (3) 今年度のグループ学習でのねらい

生徒の保護者や担任から

- ・自分の意思を表出する機会を増やし、何らかのコミュニケーション手段を身につける
- ・見通しをもち、落ちついて課題に取り組む
- ・こつこつと集中して取り組む何かを見つけてほしい
- ・卒業を前に何を身につければ・・・と悩むが、家ではできない楽しい時間や活動に取り組んでほしい

など、主に「コミュニケーション面」と「学習面」の二つについて願いがあげられた。

そこで生徒の実態とこれらの願いを考慮し、今年度は「自分のしたいこと、してほしいことなどを何らかの方法で教師と伝えあい、授業に見通しをもって落ち着いて活動を共に展開する」ことを本グループの年間目標とし、研究の対象と考えた。

さらに今年度は、金沢大学の吉川一義氏の協力を頂き、ICF（国際生活機能分類）の概念を参考にしながら、生徒の実態の変化を主に「心身機能」「活動」「参加」の分野から、

客観的に評価しようと考えた。

また、昨年度までの研究より学んだ

- ・コミュニケーションを深めるためには、生徒の「伝えたいこと・したいこと」を見逃さずに拾い上げ、その気持ちを尊重しながらやりとりを進め、活動を共に展開する
- ・同じ活動を長いスパンで繰り返し行う
- ・コミュニケーションで欠かせない「伝えたいこと・したいこと」は好きな活動から拡がるため、好きな活動を取り入れた授業づくりが大切である

上記のことを大切にしながら、今年度も「好きなこと」を取り入れた授業づくりから実践研究を進めた。

## 2. 1学期の取り組み

### (1) ねらい

私たちは生徒と教師が「したいこと」「してほしいこと」を互いに伝えあい、はじめてコミュニケーションが成立すると考える。

しかし、4月当初の生徒と教師のやりとりをみると、教師が一方的に「したいこと」などを伝えているが、生徒から教師への発信は少なく、コミュニケーションがうまくとれているとは考

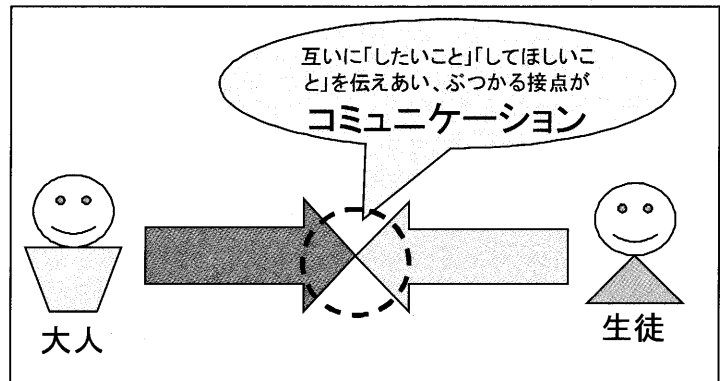


図1 私たちの考えるコミュニケーション

えられない。

そこで生徒から教師への発信が増えるなかで、生徒なりのコミュニケーション手段を得られないかと願い、1学期のねらいを「自分の好きなことをするなかで、気持ちを教師と伝えあい、グループ学習の場所に自分で集まる」とした。

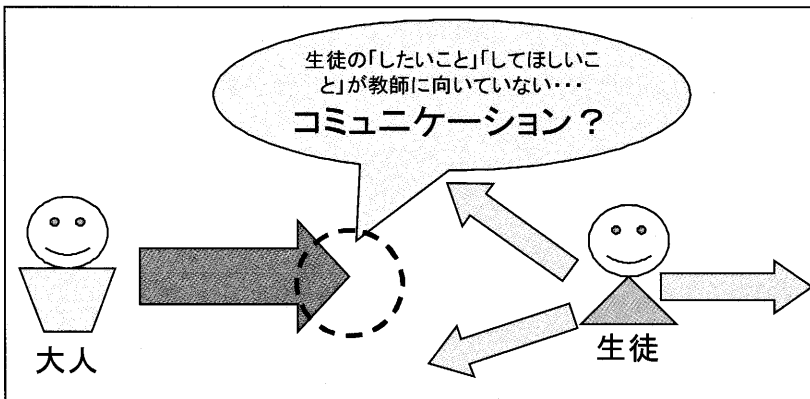


図2 1学期当初の生徒とのやりとり

### (2) 主な活動内容と生徒の実態の変化

そこで4人の共通の好きなことである「食べ物（ラーメン・焼きそば）」を取り入れた授業を行うことにした。また、生徒が教師に徐々に伝えてくるようになった「いや」「あっち行きたい」「したい」などの気持ちを見逃さずに取り上げ、尊重しながら授業を展開していくことにした。

その中で「焼きそば」を友だち数人で囲み、Y男やA子などは自分から調理をするようになった。さらに、焼きそば以外でも感覚を刺激する簡単な「布さき」などの活動や、文字のマッチングを慣れているシール貼りで行う「てがみ」、ビーズのついた針と糸で刺しゅうをしていく「ビーズ刺しゅう」など見てすぐにわかる活動には取り組むようになった。

そして「指さし」や「ことば」など、コミュニケーション手段の拡がりも見え、教師へ「したいこと」「してほしいこと」を徐々に伝えてくるようになり、互いに納得しながら活動を展開できる関係づくりもできつつあった。

(図3 参照)



焼きそばを友だちと囲んで

### 3. 2学期の取り組み

#### (1) アンケートとねらい

1学期の取り組みと生徒の実態の変化などをグループ便りで保護者に知らせ、アンケートを取った。アンケート項目は「家庭でできるようになってほしいこと」「つけてほしい力」「グループ学習への要望」である。その結果は下記の通りである。

共通する願いとして「一人でできることを見つけてほしい」などの活動の拡がり、「コミュニケーション手段の定着」などのコミュニケーション面、焼きそばなどの活動の際のマナー面などがあげられた。

そこで、2学期のねらいを「1学期でのコミュニケーションを基盤にしながら、集団または個人で取り組める活動を増やす」とした。

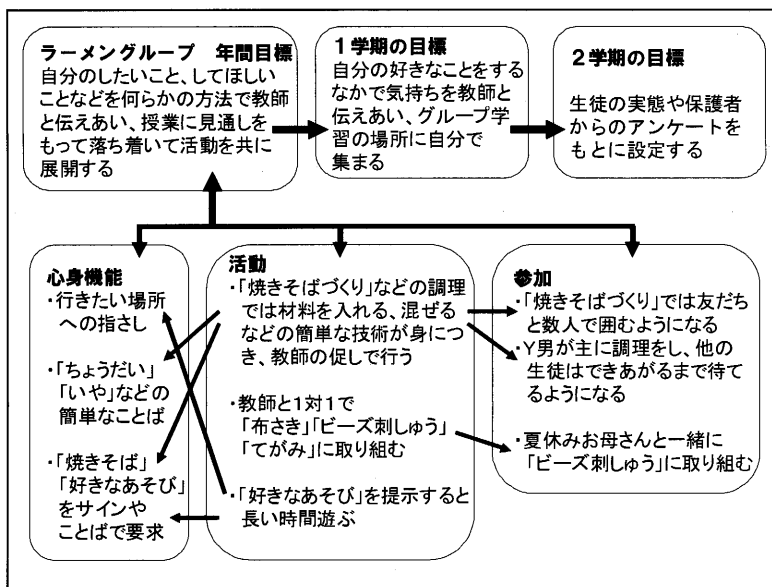


図3 1学期の本グループ全体の実態

項目	主なアンケート結果	これからの活動予定
家庭でできるようになってほしいこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中して取り組める何かを身につけてほしい</li> <li>・どんな些細なことでも「一人でできること」が一つでも増えてほしい</li> <li>・ラーメン作りや焼きそば作りでお湯が沸騰して麺を入れるまで待てるように</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 1学期の取り組みを基盤にしながら活動の幅を拡げる</li> <li>* 調理の活動を引き続き行う</li> </ul>
つけてほしい力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「お金を払ってから品物を開ける」などのマナーを身につけてほしい</li> <li>・会食時に人の分には手を出さない、「いただきます」まで我慢するなどマナーを身につけてほしい</li> <li>・トイレをつたえられるように</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 買い物学習を機会ある毎に行う</li> <li>* 調理の活動を引き続き行う</li> <li>* 担任との連携が必要</li> </ul>
グループへの要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指さしや発声、絵カードを使って確実に自分の思いを伝えられ、要求がだめな場合でもパニックにならない方法を見つけない</li> <li>・グループのメンバーに嫌な思いをさせないように、協調性をもって過ごしてほしい</li> <li>・ビーズ刺繍ができることにびっくりしました</li> <li>・これからもいろいろチャレンジしてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「好きな活動」や1学期からの行ってきた活動を取り組む中で、左記の要望を身につけてほしい</li> </ul>

1学期は生徒から教師への発信を引き出すため、生徒の伝えてきたことを一番に尊重しながら授業を展開してきたといえるだろう。そこで2学期は、1学期互いに培ってきた関係を基盤にしなが、教師から活動を提示するなど、徐々に教師からの発信を出しながら授業を展開し「どうすれば生徒が落ち着いて活動に取り組むのか」「好きな活動からどのように他の活動へ拡がっていくのか」を見ていこうと考えた。

## (2) 主な活動内容と生徒の実態の変化

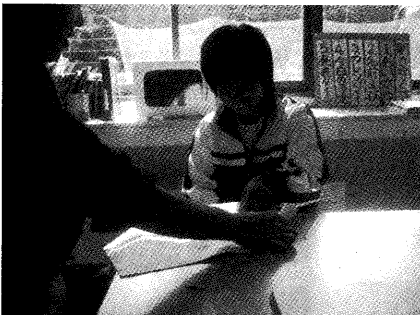
「入れる」「貼る」「～したらおしまい」などの簡単なことばを理解し、自分から取り組める活動をいくつか考え取り入れた。いくつかの活動を組み合わせることは、同じ活動に取り組むことが苦手な生徒にとって変化があり集中が持続しやすいのではと考えた。

それぞれの活動は道具を見て何をするのかがわかりやすく、感触を楽しみながら取り組める。さらに「てがみ」は生徒が慣れているシール貼りで行うので自ら取り組みやすく、家庭に持ち帰り保護者と一緒に行いやすい活動である。

- |   |   |
|---|---|
| 1 | 焼きそばづくり   |
| 2 | カレンダーづくり<br>・ビーズ通し<br>・ビーズ刺しゅう<br>・流木飾りつけ<br>・プリントゴッコ |
| 3 | かく<br>・布に自由にかく<br>・紙に自由にかく                            |
| 4 | てがみ(シール貼り)  |



一人で手元を見てシール貼り



先生と一緒にビーズ刺しゅう

10月より教師が活動を徐々に提示し発信をしていく中で、「教室に集まりたくない」「教室を出たい」という要求を以前よりも強く指さしやことばで伝えてくるなど、今までとは違う様子が見られた。その要求に応じながらも、どうすれば生徒が教室に集まり活動に取り組めるか、毎日試行錯誤しながら授業を行った。

その中でより明確に生徒の実態が見えてきた。そこで静かな場所やあそびの大切さを改めて学び、生徒に応じた環境設定や活動内容を考え、コミュニケーション手段の定着をはかるため個に応じてサインやことばを厳選しながら使ってきた。

11月ごろより、教室の「焼きそばづくり」以外の学習の場所に、4人がそれぞれのペースで集まり、自ら道具を見て手にし取り組む様子が見られるようになってきた。学習の場所への移動には時間がかかる生徒もいるが、気持ちを整理し納得してから移動するため、活動に取りかかると集中して手元をよく見て取り組むという変化も見られた。生徒によっては、教師が隣で座り見守り、道具を提示するだけで一人で取り組んでいる。また、いくつ

かの活動の流れに見通しをもち、自分から活動を選択する様子が見られるようになってきた。そのことが教師と生徒の思いをぶつけ合う機会にもなっているようである。(次項を参照)

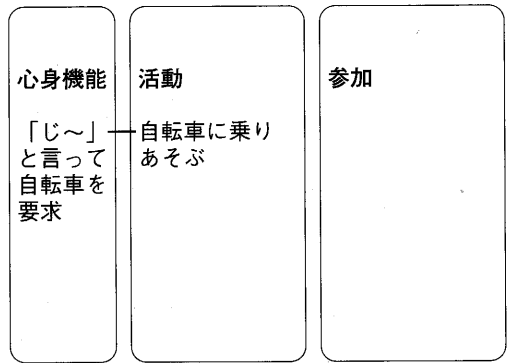
## 4. 1学期から2学期の生徒の実態の変化

生徒一人一人の1学期から2学期の実態の変化を「心身機能」「活動」「参加」の分野から見ていく。

(1) 3年・T子の1学期から2学期の変化

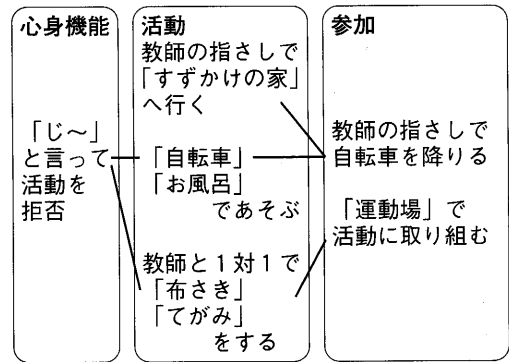
	教師の主なかわり方	生徒の主な様子
4月	「あそび」「ラーメンづくり」を行いながら生徒の実態把握を行う  *T子には自転車に乗る時間を確保する	*T子-1 長い時間、自転車に乗り教師が声をかけても自分から降りることが少ない
5月	生徒からの発信を引き出すために生徒の「好きなこと」「伝えてきたこと」を尊重しながら活動する	
6月	「布さき」など感覚を刺激する活動を提示し食堂など数人集まれる場所で活動を行う  *T子の好きであろうお風呂を教師から誘い、自転車以外の楽しみにつなげる	*T子-2 ・長い時間自転車に乗った後、教師が声をかけると降り、運動場で「布さき」「てがみ」に取り組む ・活動をし始めると「じ～(自転車)」と大声を出し声を荒げる ・教師が「すずかけの家」を指さすと自転車を自分から降りて向かい、お風呂で遊ぶ
7月	生徒の伝えてきたことを尊重しながら教室を基本の場所として活動を行う	
9月	生徒に応じた活動内容を厳選する  *T子に校内で楽しめる「キャスターカー」「シートブランコ」などのあそびの環境を整え、楽しむ時間を確保する	・自転車に乗った後、教室へ向かう ・教室で「布さき」「てがみ」の活動に取り組む ・活動をし始めると「じ～(自転車)」と大声を出し声を荒げる ・「ポッポー(キャスターカー)」「ブーラン(シートブランコ)」とことばで教師に要求する
10月	教室を活動の場とし「焼きそばづくり」「流木飾りつけ」「ビーズ刺しゅう」「かく」「てがみ」の一連の活動を提示し共に取り組む	*T子-3 ・自転車から教室への移動が早くなる ・「焼きそばづくり」から他の活動場所への移動が早くなる ・「焼きそばづくり」以外の活動にも教師とかわりながら取り組む ・活動をししばらくすると「いや～」と表情をくもらせ両手で顔を覆う
11月		
12月		・「ポッポー」「おーわい(おわり)」と言いながら自転車を降りる ・活動をししばらくすると「いや～」と教師と視線を合わせ笑顔で言う

\*T子-1



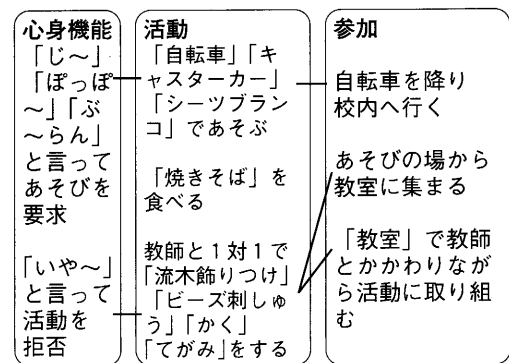
好きな「自転車」の時間を確保しながら活動の幅を広げようと考えた。

\*T子-2



お風呂は好きなあそびであるため、自転車を自分から降りる。そこで校内にT子の好きなあそびを常置する。

\*T子-3



T子の好きなあそびから「ことば」が増えてきた。その「互いに伝わりあうことば」を使い、教師とのかわり方を今まで以上に楽しむようになってきた。「教師とのかわり」「活動の見通し」があるため、教室への移動がスムーズになってきたのではないかと。

(2) 2年・A子の1学期から2学期の変化

	教師の主なかわり方	生徒の主な様子
4月	「あそび」「ラーメンづくり」を行いながら生徒の実態把握を行う	<b>*A子-1</b> ・運動場など屋外の涼しく静かな場所に向かい長い時間過ごす ・土や石などを口に運ぶ
5月	生徒からの発信を引き出すために生徒の「好きなこと」「伝えてきたこと」を尊重しながら活動する	
6月	「布さき」など感覚を刺激する活動を提示しながら、食堂など数人集まれる場所で活動を行う	・焼きそばを提示すると自分から素早く教室へ移動する ・焼きそばを食べた後、教師が促すと「布さき」などの活動に取り組むが、取り組み始めるまでに時間がかかる
7月	生徒の伝えてきたことを尊重しながら教室を基本の場所として活動を行う	・活動に取り組みたくない時は、教師を手で押しのけるようになる
9月	生徒に応じた活動内容を厳選する	・教師が食器カゴを提示し促すと、お皿やフォークを取り出す
10月	教室を活動の場とし「焼きそばづくり」「ビーズ通し」「ビーズ刺しゅう」「かく」「てがみ」の一連の活動を提示し共に取り組む	<b>*A子-2</b> ・教師が何度も活動を促し声かけすると、一連の活動に取り組む
11月		・教師がわざと大きな声で促すと笑い抱きついてくるようになる
12月	*A子は一人でも活動に取り組める様子が見られたため、自分から活動に取り組むまで、あえて教師からの促しの声かけを少なくする	<b>*A子-3</b> ・ホットプレートが教師が持っている、自分から手にし教室に運ぶ ・調理では教師が材料を提示すると手をのぼし持つようになる ・食器カゴからお皿とフォークを自分から取り出し準備する ・焼きそばをほしい時は自分から教師に両手を軽くたたきサインで「ちょうだい」を伝えてくるようになる ・「焼きそばづくり」以外の他の活動場所へ自分から移動して着席する ・道具を手にして集中して手先をよく見て取り組む ・一連の活動の流れに見通しをもっているのか「ビーズ刺しゅう」などの途中で最後の「てがみ」を手にしたがる ・「まだ～してから」と伝えると、声を荒げる

\*A子-1

心身機能	活動	参加
	屋外の涼しく静かな場所で過ごす	参加

\*A子-2

心身機能	活動	参加
両手をたいたいて焼きそばを要求	「焼きそば」を教室で食べる	教師の促しでお皿とフォークを準備する
教師を手で押しのけて活動を拒否	教師と1対1で「ビーズ通し」「ビーズ刺しゅう」「かく」「てがみ」をする	教師の促しで活動場所まで移動する 着席して活動に取り組む

教師と共に活動することで、授業の流れに見通しをもち、一人で活動に取り組む力がついてきた。そこでA子の「自分でする」姿勢を引き出したいと、教師の促しをあえて少なくしようと考えた。

\*A子-3

心身機能	活動	参加
両手をたいたいて焼きそばを要求	材料や水、油を入れ「焼きそば」を作り、食べる	自分からお皿とフォークを準備する
声を荒げて活動を拒否	「ビーズ通し」「ビーズ刺しゅう」「かく」「てがみ」をする	自分で活動場所まで移動する
手元を見て活動に取り組む		長い時間、集中して活動に取り組む

教師の促しがないということで、自分のペースで活動に取り組める。そのことが自発的な姿勢や落ち着きにつながったのではないかと考えた。さらに「自分でする」という意識から、集中して手元を見ながら取り組むようになったのではないかと考える。

(3) 2年・S男の1学期から2学期の変化

	教師の主なかわり方	生徒の主な様子
4月	「あそび」「ラーメンづくり」を行いながら生徒の実態把握を行う	<p><b>*S男-1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関や職員室など静かな場所で、長い時間一人で過ごす</li> <li>・活動に誘うと、手を左右に振り拒否の姿勢を示す</li> </ul>
5月	生徒からの発信を引き出すために生徒の「好きなこと」「伝えてきたこと」を尊重しながら活動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラーメンの包装を提示すると食堂などへ向かい調理する</li> <li>・行きたい場所を指で指すようになる</li> </ul>
6月	「布さき」など感覚を刺激する活動を提示しながら、食堂など数人集まれる場所で活動を行う	<p><b>*S男-2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「すずかけの家」へ行きたいことを指さしで伝えてくる</li> <li>・すずかけの家でフライパンを取り出し焼きそばを調理し、お風呂であそぶ</li> <li>・その後「布さき」などの他の活動に取り組む</li> </ul>
7月	生徒の伝えてきたことを尊重しながら教室を基本の場所として活動を行う	
9月	生徒に応じた活動内容を厳選する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が提示した焼きそばを見ると自分から教室に向かい調理する</li> <li>・焼きそばを食べた後、教室以外の場所を指さしで要求、移動、一人で過ごし、その場所で他の活動に取り組む</li> </ul>
10月	教室を活動の場とし「焼きそばづくり」「ビーズ通し」「ビーズ刺しゅう」「かく」「てがみ」の一連の活動を提示し共に取り組む  *S男に「これをして～に行く」とことばやサインで伝える  *S男には静かな場所で過ごす時間を確保する	<p><b>*S男-3</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の提示する活動にしばらく取り組むが、途中で教室を出歩く</li> <li>・活動途中で大声を出し、周囲の人に手を出すこともある</li> <li>・S男の要求する静かな場所へ教師と一緒に向かうと、落ち着く</li> </ul>
11月		<p><b>*S男-4</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室に向かうまでに時間がかかるようになったため、「焼きそばづくり」に参加することが少なくなった</li> <li>・自分から落ち着いて教室に集まった時は、素早く活動の道具を手にし、手元を見て集中して取り組むようになる</li> </ul>
12月		

\*S男-2

心身機能	活動	参加
行きたい場所を指で指して要求  手を左右に振り活動を拒否	「すずかけの家」へ教師を連れて行く  「焼きそば」を調理し食べる  お風呂であそぶ  教師と1対1で「布さき」「てがみ」をする	教室以外の場所で活動する  自分から道具を準備し調理する

S男の好きな場所での調理、好きなお風呂の活動を尊重した授業を展開することで、拒否のサインだけではなく、「指さし」という教師への発信が定着してきたと考える。

\*S男-3

心身機能	活動	参加
声を荒げ活動を拒否	「焼きそば」を教室で調理し食べる  教師と1対1で「ビーズ通し」「ビーズ刺しゅう」「かく」「てがみ」をする	友だちのいる教室で焼きそばを作る  教室で活動に取り組む  活動の途中で教室を出ようとする

教室での活動を促すことがS男の苛立ちを生むのだろう。そこでS男には教室以外の場所で過ごす時間を確保する。

\*S男-4

心身機能	活動	参加
「したいこと」「行きたい場所」を指で指す  手元を見て活動に取り組む	「ビーズ通し」「ビーズ刺しゅう」「かく」「てがみ」をする	教師が促すと時間はかかるが自分から教室に移動する  長い時間、集中して活動に取り組む

気持ちを整理し、納得してから教室に向かうため、教室に入室した後は落ち着いて、自分から集中して取り組むのではないかと考える。

(4) 1年・Y子の1学期から2学期の変化

	教師の主なかわり方	生徒の主な様子
4月	「あそび」「ラーメンづくり」を行いながら生徒の実態把握を行う	*Y子-1 ・食堂や職員室などに向かい、食べ物をさがす
5月	生徒からの発信を引き出すために生徒の「好きなこと」「伝えてきたこと」を尊重しながら活動する	・メンバーが数人集まっている教室やすすかけの家に教師が促すと、身体をくねらせて拒否の姿勢を示す
6月	「布さき」など感覚を刺激する活動を提示しながら、食堂など数人集まれる場所で活動を行う	・焼きそばを提示しながら教室へ促すと、時間はかかるが教室へ向かうようになる
7月	生徒の伝えてきたことを尊重しながら教室を基本の場所として活動を行う	*Y子-2 ・「焼きそばづくり」から自分で教室に集まる ・「布さき」「てがみ」には教師と一緒に歩きながら取り組む
9月	生徒に応じた活動内容を厳選する	・自分から教室に集まる ・友だちが調理をしている間、椅子に座って待つ
10月	教室を活動の場とし「焼きそばづくり」「プリントゴッコ印刷」「流木飾りつけ」「てがみ」の一連の活動を提示し共に取り組む	*Y子-3 ・自分からお皿やフォークを手にする ・「プリントゴッコ」では教師が器具を指さし声かけすると、自分から手を伸ばし印刷する  ・なかなか取り組まない時や、教室を出ていく時に何度も活動を促すと、身体をくねらせて拒否の姿勢を示す
11月	*「教室を出たい」Y子の思いとY子のペースを尊重したかわり方をする  *活動の道具を提示する場所を固定し、その場所の近くにY子が来た時に活動を促す	*Y子-4 ・教室を出たい時は教師の手を強く握るようになる ・ある程度、廊下を歩いた後、教師が教室を指さすと、自分から教室へ向かう  ・立ったり座ったりして活動するが、教師が印刷器具や手紙を指さし声かけすると、道具に手を伸ばし取り組むようになる ・プリントゴッコでは自分のペースで1日20枚印刷する ・「てがみ」では指先を器用に使ってシールを貼るようになる
12月		

\*Y子-2

心身機能	活動	参加
	「焼きそば」を教室で食べる  教師と「布さき」「てがみ」に挑戦する	焼きそばを通して友だちと場を共有する  教室以外の場所を歩きながら、教師と一緒に活動に取り組む

好きな調理を授業に取り入れたことで、教室に集まるようになった。

\*Y子-3

心身機能	活動	参加
身体をくねらせて活動を拒否	「焼きそば」を教室で食べる  教師と1対1で「プリントゴッコ印刷」「てがみ」をする	自分から教室に集まる  焼きそばを友だちが調理している間座って待つ  教室で歩きながら活動に取り組む  活動の途中で教室を出歩く

教師が何度も教室での活動を促すことがY子の拒否につながっている。そこでY子には教室を出歩く時間を確保し、活動の道具を設置する場所を決める必要があるのではと考える。

\*Y子-4

心身機能	活動	参加
教師の手を握り教室を出ることを要求  指先を使いシールを貼る	自分でお皿とフォークを準備し「焼きそば」を食べる  教師と1対1で「プリントゴッコ印刷」「流木飾りつけ」「てがみ」をする	教室に自分から集まり準備する  焼きそばを友だちが調理している間座って待つ  自分から活動の道具を手にする  教室を出歩きながら、すぐに戻ってきて活動に取り組む

教室にすぐに戻ることから授業の流れに見通しをもっていることがわかる。さらに時間をかけて納得し教室に入室しているため、活動に落ち着いて取り組めるようになったのではないかと考える。



## (5) 考察

生徒一人一人の実態の変化から下記の通り考察した。

	主な実態の変化	考 察
T子	・好きな自転車やキャスターカー、シートブランコなどの「あそび」から「ことば」が拡がり、その「ことば」から人とのかかわりや活動の幅も拡がった	T子にとっては「好きなあそび」を取り入れた授業や環境設定が良かったと考えられる
A子	・わかりやすい活動をいくつか組み合わせた授業づくり、さらには教師が長い期間、一緒に活動したことで、授業に見通しをもち一人で活動できるようになった ・自分のペースで取り組むことが、落ち着いて活動することや手元を見るなどの確実性、さらには集中力を高めた	A子にとっては「いくつかの活動を組み合わせた授業」「教師からの促しを控え、本人のペースを尊重するかかわり」が良かったと考えられる
S男	・教師に発信する好きな場所や活動を尊重しながら授業を展開することが「指さし」というコミュニケーション手段の定着につながった ・気持ちを整理する十分な時間を確保することで、教室で落ち着き、手元を見ながら集中して取り組むようになった	S男にとっては「好きなことを取り入れた授業」「本人のペースを尊重した授業」が良かったと考えられる
Y子	・好きな調理を取り入れたことで、自分で準備するなど自発的な行動が生まれた ・わかりやすい活動を継続して行うこと、そして本人の伝えてきたことを尊重しながら授業を展開することで、落ち着いて活動するようになった	Y子にとって「好きなことを取り入れた授業」「活動の厳選と継続」「本人の伝えてきた思いを尊重した授業」が良かったと考えられる

振り返ると今年度の実践研究では、「好きなこと」や「生徒が取り組みやすい活動」を授業に取り入れながら、「活動」の分野の拡がりをねらってきたと言える。

グループ全体を見てみる。「活動」が拡がってきたことで、「心身機能」の分野では拒否の発信だけでなく要求の伝達手段の定着が見られた。また、指先を使ったり手元を見たりして活動するなど、取り組む姿勢の変化も見られる。

さらに「参加」の分野では、自分から教室の中で活動するようになり、生徒同士で場を共有する時間や自分からお皿を準備するなどの自発的な姿が増えたと言える。さらに集中して活動に取り組むなど授業全体に落ち着きが見られるようにもなった。

これらの考察から「自分のしたいこと、してほしいことなどを何らかの方法で教師と伝えあい、授業に見通しをもって落ち着いて活動を共に展開する」ことをねらいとしている本グループの生徒にとって、「好きなこと」を取り入れながら活動を拡げていく実践は成果を上げたのではないかと考える。

## 5. 今後の取り組みについて

12月、2回目の保護者アンケートを実施した。その結果

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・今、ついてきている集中力を伸ばしてほしい</li> <li>・今までと同じく楽しく勉強してほしい</li> <li>・学校で集中して行っている活動を家でも行ってみたい</li> </ul> |
|--|

などの願いがあげられた。

また同じ時期に授業参観も本グループ独自で行い、生徒の取り組みの様子を保護者の方に見てもらう機会を設けた。「落ち着いて座って活動する」「一人でビーズ通しなどに取り組む」などの姿に驚いた、などの感想が寄せられた。

そこで今後は今までの「活動」「かかわり方」を大切にしていくなかで、友だち同士で

机を並べて活動する集団の姿を期待したい。また、保護者に対しては今後もお便りを通して生徒の様子をお知らせし、実際に授業を見てもらう機会を設けることで、少しでも家庭と連携できる活動を多く見つけていきたいと考えている。